

公立大学法人長岡造形大学第2期中期計画（案）の特徴

1. 第1期中期計画における実績の概要

第1期中期計画においては、公立大学への移行に伴う円滑な業務運営に注力してきた。

新たなディプロマポリシーを掲げ、「社会人基礎力」、「構想力」、「造形力」の3つの能力を学生が身に付ける教育を実施するとともに、積極的に地域において活動するための科目の開講と、教育内容の充実やきめ細やかな教育を実施するため、専任教員の増員を行った。また、地域協創センターを設置し、市民、産業界、高等教育機関、行政機関、金融機関等と連携し、地域の課題解決に積極的に取り組んできた。

公立大学として順調にスタートを切り、全国から志願者が集まる大学となった。

2. 第2期中期計画（案）における主要項目

(1) 教育研究組織の見直しとカリキュラムの改編

- ・ デザインの創造性にテクノロジーの発展性を掛け合わせ、人々の暮らしをより楽しく豊かにすることを目指した新学科の創設等の教育研究組織の見直し
- ・ 科学技術の進歩や社会のニーズの変化への対応と学生の自主的、自律的な学修、研究、創作活動の活性化を目指したカリキュラムポリシー及びカリキュラムの見直し・改編
- ・ 「造形・表現」としてのデザインと「問題発見・解決プロセス」としてのデザインを体系的に学修するための適切な科目構成と授業計画の整備

(2) 地域の課題解決への取り組みと NaDeC 構想の推進

- ・ NaDeC 構想に基づく、地域の高等教育機関、企業、自治体、金融機関等と連携した、地域の課題解決に取り組む教育・研究、新たな価値の創造に向けたプロジェクト、社会人対象のデザイン教育の実施
- ・ 長岡市中心市街地に整備される研究拠点を活用した研究・調査等の推進

(3) 施設設備の整備活用と業務改善

- ・ 教育研究組織の見直しに合わせた必要な施設設備の整備と、既存の施設設備の有効活用に向けた全学的な取り組みの実施
- ・ 新たな課題への対応やワークライフバランスの確保に向けた適切な人事配置と既存の業務の徹底的な見直し